

## 令和5年度 第3回生活支援・介護予防体制整備推進協議会 議事録

日 時 令和6年2月14日(水) 13:30~14:30

場 所 刈谷市役所 101会議室

出席者:

区 分	所 属	名 前
生活支援コーディネーター (SC)	刈谷富士松地域包括支援センター	生島謙一郎
	刈谷雁が音地域包括支援センター	宇佐美めぐみ
	刈谷中部地域包括支援センター	倉川叔子
	刈谷中央地域包括支援センター	磯部亮子
	刈谷依佐美地域包括支援センター	千葉伸一
	刈谷朝日地域包括支援センター	鈴木健司
各種団体を代表する者 (民間企業・NPO法人・協同組合・ボランティア)	株式会社豊田自動織機	鈴木智晴
	NPO法人 我がまちの縁側	野島美智子
	かりや愛知中央生活協同組合	林孝志
	あいち中央農業協同組合	杉浦弘美 (欠)
	刈谷市民ボランティア活動センター	米田正寛 (欠)
	一般社団法人 まちづくり支援センター	塚本裕章 (欠)
民生委員	刈谷市民生委員	深谷由美子
社会福祉協議会の職員 (社会福祉法人)	刈谷市社会福祉協議会	川口剛史
市の職員	刈谷市役所 長寿課	杉山文章
オブザーバー	刈谷市基幹型地域包括支援センター	鈴木敦史
アドバイザー		塚本鋭裕

### 1 議 題

(1) 令和5年度第2回の推進協議会の振り返り (資料の議題1を説明)

(2) 住民参加型支え合い事業の取組 (資料1の議題2を説明)

発言委員等	意見
委員	・ 利用者は利用の際、必ずセンターを通さなければいけないか？
事務局	・ サポーター活動時に保険が適用されなくなってしまうため、必ずセンターを通していただきたい。そうすることで安心して利用・サポートすることができる。
副会長	・ 今後、住民参加型支え合い事業に包括職員として関わる立場としてどうか？
委員	・ 包括支援センターがどのタイミングで関わることになるのか、+αの仕事になるのでどのくらいの業務量になるか未知数。利用後のフォローなどどのような業務になるかによって、現場の負担感が変わるのでその点が心配。
副会長	・ 企業がボランティアとしてサポーターを務められる方としての意見はどうか？
委員	・ 退職後ならボランティアをすることは可能。もしくは副業としてサポーター活動をするなら可能かと考える。
委員	・ 運営委員会のようなセンターをバックアップできるような仕組みがある

発言委員等	意見
	と、マッチングだけでなく情報共有もできていいのではないかと。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業のセンターと各地域包括支援センターを密に行き来することでいい関係ができる。</li> <li>・ 前から近所とのつながりがあった地域もあると思うが、それだけではなかなか関係が成り立たない。ボランティアではなく有償であることで、お願いする側としては頼みにくいことも頼めたり、お金を渡した方が継続して頼めたりするのでいい。</li> <li>・ 依頼内容の幅が広いので、3地区での動きがスムーズであることが次につなげるうえで大切なのではないかと。鍵になるのが、サポーターの養成とマッチング、細かなルール化などで、これからもそういった部分を突き詰めてやってほしい。</li> </ul>

### (3) 暮らしの地域支え合いガイド（資料1の議題3を説明）

発言委員等	意見
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インデックスがついて見やすくなった。</li> <li>・ 表紙に書いてあるように、「介護予防」が入っており、生活支援のガイドではあるが、高齢者の方の希望は健康であることなので、「介護予防」や「健康づくり」もキーワードとして情報提供していけると高齢者としては嬉しいのではないかと。逆に生活支援コーディネーターの方々からすると、インデックスのようなキーワードについて、高齢者やそのご家族の立場から考えて、ご検討していただくとより良いものになるのではないかと。</li> <li>・ 今後はいかにこれをうまく使っていけるかが重要で、60代～70代の若い世代が持つスマートフォンとガイドの情報がリンクすることで、手元でいつでも情報を見ることができるようになると、より利用が拡大するのではないかと。</li> </ul>

### (4) 介護予防に関する報告（資料1の議題4を説明）

発言委員等	意見
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席された代表の方々には90%以上有意義な情報を得られたということで、持ち帰って活動に活かしていただきたい。欠席された方々に関しては、少しでも関心を持って前向きに活動していただくための働きかけを事務局にはしていただきたい。</li> <li>・ 介護予防はこれから重要になってくる。要介護状態になる前に抑えていくことで生活が整うことが一番良い。これから要介護者は伸びていく、特にこの10年間で「介護予防」を意識していくことが重要。</li> </ul>

### (5) 第2層生活支援コーディネーター活動報告（資料1の議題5 資料2を説明）

発言委員等	意見
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつでもつながる体操教室刈谷を活用したサロンは、オンライン機能が活用されていていい。専門家が声をかけながら取り組むことができるから、説得力がある。新規で利用する方が継続していくためには、個別のアドバイスが必要になってくると思われる。その場合、リハビリテーション職が地域に出て行ってアドバイスをやる地域リハビリテーション活動支援事業のようなサービスにつなげていくといい。体操を続けることによって、体力の維持・向上がわかるとモチベーションの向上にもつながるので、個</li> </ul>

発言委員等	意見
	<p>別評価に結び付けるための地域リハビリテーション活動支援事業も手法としていいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民参加型支え合い事業の取組で、実施地区を絞るのはいいと思ったが、意識や協力体制があるところから広めていかないと切り開いていけないと思うので、地域の把握が重要。</li> <li>・ 地域の掘り起こしが大切であり、3地区の情報を徹底して刈谷市全域に伝えていく必要がある。特定の地域から事業を実施していくことで地域の無関心に関心に変えていく作業が必要。</li> <li>・ 東白川村が認知症になっても不安のない町づくりをしていた時期があり、近隣市町では今だに「安心できる町」という認識がある。時間がかかるかもしれないが、東白川村のように丁寧に一つ一つを地域の方々と作り、評価し、ガイドにも伝達できればいい。来年は重要な1年になりそう。</li> </ul>

## (6) その他

発言委員等	意見
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日が2年任期の最後の協議会です。任期満了に伴い、各団体宛てに推薦依頼を発送予定。令和6,7年度では、担い手の確保、PRの観点から大学生にも委員として参加していただくことを検討中。</li> <li>・ 次回は令和6年7月ごろを予定。近づいたら事務局より連絡する。</li> </ul>